# 交付運用報告書

# Bayview 日本株式 ロングショート ファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（ロング・ショート型）

| 第17作成期末（2021年11月25日） | |
|---|---|
| 基準価額 | 9,689円 |
| 純資産総額 | 348百万円 |
| 第17作成期（2021年5月26日～2021年11月25日） | |
| 騰落率 | 1.2% |
| 分配金合計 | 0円 |

（注）騰落率は収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## その他の記述

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、ベイビュー・アセット・マネジメント株式会社のホームページで閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URL「公募ファンド情報」からファンド名を選択し「ファンド詳細」、「月次レポート／運用報告書」を選択することにより、閲覧およびダウンロードする事ができます。

**第17作成期**
作成対象期間:2021年5月26日～2021年11月25日
第32期（2021年8月25日） 第33期（2021年11月25日）

## 受益者のみなさまへ

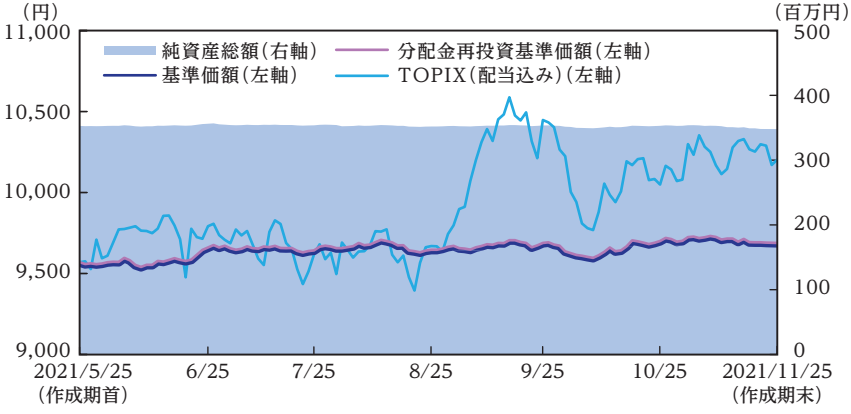
平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「Bayview 日本株式ロングショート ファンド」は、2021年11月25日に第33期決算を行いました。
ここに第32期、第33期の運用状況をご報告申し上げます。
当ファンドは、わが国の株式を主要投資対象とし、株式ロング・ショート戦略により、中長期的に安定した絶対リターンの獲得を目指して積極的な運用を行います。
今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

BAYVIEW ASSET MANAGEMENT

ベイビュー・アセット・マネジメント株式会社
〒102-0082 東京都千代田区一番町29-1 番町ハウス
www.bayview.co.jp
電話番号　03-5210-3573
受付時間:営業日の9:00～17:00

## 運用経過の説明

### ■ 基準価額等の推移（2021年5月26日～2021年11月25日）




| | |
|---|---|
| 第３２期首 | 9,570円 |
| 第３３期末 | 9,689円 |
| 既払分配金 | 0円 |
| 騰落率（分配金再投資ベース） | 1.2% |

（注1）上記の基準価額の推移は、当ファンドの信託報酬及び実績報酬控除後の価額を用いて計算しております。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

（注2）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注3）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

（注4）当ファンドは株式ロング・ショート戦略を採用するヘッジファンドですが、TOPIX（配当込み）を参考指数とし、上記のグラフは期首のTOPIX（配当込み）の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化したものです。

### ■ 基準価額の主な変動要因

当作成期の当ファンドの騰落率（分配金再投資ベース）は、+1.2%でした。株式市場が期首から8月末まで上値の重い展開が続き、その後は堅調に推移する中、当ファンドは主要中央銀行の金融政策や新型コロナウイルスの動向等を注視しつつ、株式相場に対する慎重な見方を継続しネット・エクスポージャー（*）を小幅なネット・ロング（*）に維持しています。結果、ロング・サイド（*）における銘柄選択が奏功し、最終的にプラス・リターンとなりました。

（*）については、6ページの用語解説をご参照下さい。

<プラス要因>

マザーファンドで組入れる個別銘柄について、ロング・サイドでは、好調な海運市況に支えられ2022年3月期通期の業績予想を上方修正した川崎汽船（9107）の他、半導体関連銘柄が物色される中で買われた東京エレクトロン（8035）、9月下旬のIPO（新規株式公開）以降株価上昇が継続するシンプレクス・ホールディングス（4373）等が値を上げました。ショート・サイド（*）では、2021年9月期通期業績予想の上方修正発表を見送ったことが失望売りにつながった情報・通信株、2021年7-9月期決算が市場予想に届かなかった自動車・機械株等が下落し、当ファンド基準価額の各々プラス要因となっています。

<マイナス要因>

マザーファンドで組入れる個別銘柄について、ロング・サイドでは、中国政府によるネット企業への規制強化の動きが出資先企業に悪影響を及ぼすと懸念されたソフトバンクグループ（9984）、東南アジアにおける新型コロナウイルスの感染拡大を要因に2022年3月期通期の業績予想を下方修正したASTI（6899）等が値を下げました。ショート・サイドでは、2022年3月期通期の業績予想を上方修正すると共に増配を発表した小売・サービス株、セルサイド・アナリストの目標株価引き上げを受けて強含んだ情報・通信株等が上昇し、当ファンド基準価額の各々マイナス要因となっています。

（*）については、6ページの用語解説をご参照下さい。

## ■ 投資環境

当作成期の株式市場は、上昇しました。期首から8月末にかけては、6月の議会証言にてパウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長が早期利上げに対して慎重な姿勢を示したため値を上げた米国株式市場に追随する動きがみられたものの、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い国内で緊急事態宣言が発令され景気の先行きを巡る不透明感が高まったことで株価は軟調に推移しています。9月に入ると株式相場は一転、菅首相の自民党総裁選への不出馬表明を受けた首相交代により新たな経済対策が打ち出されるとの期待感や、同ウイルスの新規感染者数減少を好感し大きく値を上げました。しかしその後は、米連邦政府の債務上限問題の他、資源価格の高騰等を背景としたインフレ加速懸念が重石となり株式市場は上げ幅を縮小しています。期末にかけては、衆議院選において自民党が単独過半数を獲得し株価は再び上昇しましたが、日経平均が節目の3万円に近づく場面では利益確定売りが広がり上値を抑えられています。最終的に、当作成期のTOPIX（配当込み）は+6.6%、日経平均は日銀がETFの購入対象から日経平均連動型を除外したこと等もあり+3.3%となっています。

## ■ 1万口当たりの費用明細

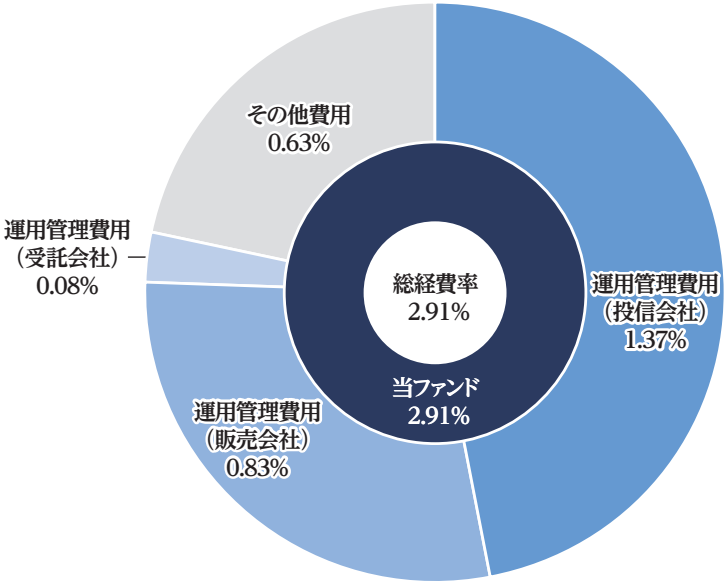
| 項目 | 第32期～第33期<br>2021年5月26日～2021年11月25日<br>金額 | 比率 | 項目の概要 |
|---|---|---|---|
| (a) 信託報酬 | 111円 | 1.148％ | (a) 信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率＋成功報酬額 |
| （投信会社） | （ 67 ） | （ 0.693 ） | ファンドの運用、基準価額の算出等の対価 |
| ((うち成功報酬)) | (( － )) | (( － )) | 運用実績に応じて投信会社に支払われる対価 |
| （販売会社） | （ 40 ） | （ 0.416 ） | 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受託会社） | （ 4 ） | （ 0.039 ） | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b) 売買委託手数料 | 2 | 0.021 | (b) 売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料÷当作成期中の平均受益権口数 |
| （株式） | （ 2 ） | （ 0.018 ） | 有価証券等を売買する際に発生する費用 |
| （先物・オプション） | （ 0 ） | （ 0.003 ） | |
| (c) その他費用 | 31 | 0.317 | (c) その他費用＝当作成期中のその他費用÷当作成期中の平均受益権口数 |
| （監査費用） | （ 1 ） | （ 0.006 ） | 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| （保管振替費用） | （ 0 ） | （ 0.002 ） | 保管振替機構に支払う投資信託受益権の管理手数料 |
| （信用取引） | （ 26 ） | （ 0.277 ） | 信用取引に係る品貸料、未払配当金等 |
| （その他） | （ 3 ） | （ 0.032 ） | 金銭信託手数料等 |
| 合計 | 144 | 1.486 | |
| 当作成期中の平均基準価額は9,650円です。 | | | |

(注1) 当作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含みます）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含みます）を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しております。
(注3) 売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
(注4) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しております。
(注5) 成功報酬は、分配金控除前及び成功報酬控除前の10,000口当たりの純資産価額から、過去の計算期間における最も高い基準価額（ハイ・ウォーター・マーク）を超えた部分について、報酬率（税込22.0%）を乗じた金額を算出しております。

## （参考情報）

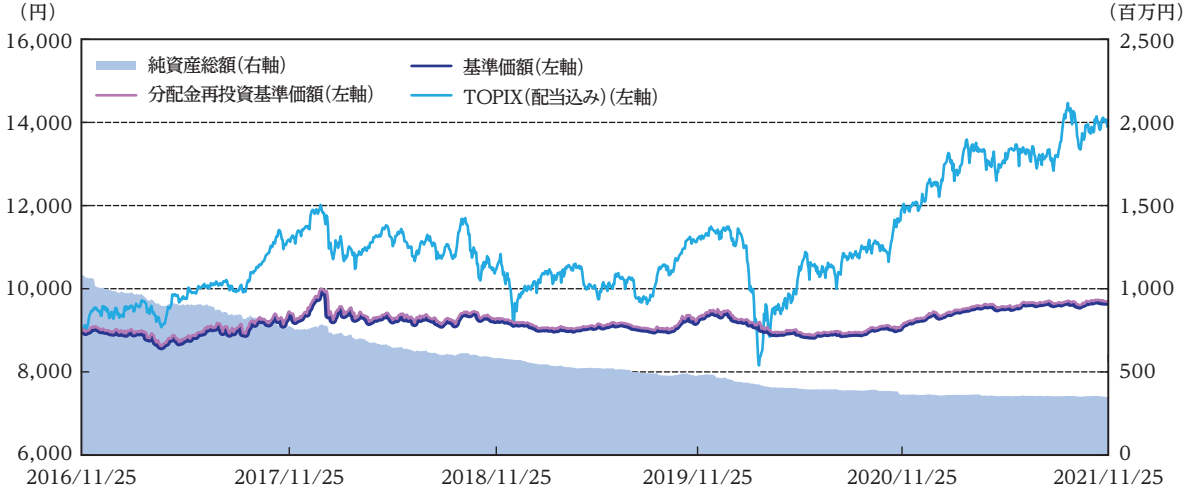
○総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を当作成期中の平均受益権口数に当作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.91%です。




（注1）上記費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出した結果です。
（注2）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
（注3）各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。
（注4）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ■ 最近5年間の基準価額等の推移（2016年11月25日～2021年11月25日）




（注1）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注2）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注3）分配金再投資基準価額、TOPIX（配当込み）は、2016年11月25日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

| 項　　目 | 2016/11/25 決算日 | 2017/11/27 決算日 | 2018/11/26 決算日 | 2019/11/25 決算日 | 2020/11/25 決算日 | 2021/11/25 決算日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基準価額（円） | 9,005 | 9,449 | 9,282 | 9,294 | 9,125 | 9,689 |
| 期間分配金合計（税込み）（円） | － | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額騰落率（%） | － | 4.9 | △1.8 | 0.1 | △1.8 | 6.2 |
| 参考指数 TOPIX（配当込み）騰落率（%） | － | 23.9 | △6.2 | 7.0 | 6.3 | 17.0 |
| 純資産総額（百万円） | 1,085 | 774 | 582 | 477 | 362 | 348 |

（注1）当ファンドはベンチマークを設けておりません。TOPIX（配当込み）は参考指数です。
（注2）騰落率は1年前の決算応答日との比較です。

## ■ 運用状況

●当ファンド

2021年11月17日までBayview 日本株ロングショート マザーファンドの組入比率を高位に保ちました。

●Bayview 日本株ロングショート マザーファンド

当作成期は、主要中央銀行の金融政策や国内政治情勢、新型コロナウイルスの感染状況、そして企業決算等の動向を注視しつつ、先物主導による値動きの荒い展開を想定する中で株式市場への慎重な姿勢を継続し、ネット・エクスポージャーを小幅なネット・ロングに維持しました。結果、ネット・エクスポージャーは前期末の+3.4%から、期末に+5.8%となっています。

ロング・サイドでは、株価水準に割安感の出てきた日華化学（4463）や、好業績が期待できる遠藤照明（6932）、好調なオフィスサービス事業を柱に業績改善が見込まれるリコー（7752）等を組入れる一方、株価上昇に伴い川崎汽船（9107）やUSEN-NEXT HOLDINGS（9418）等を売却し利益確定をしています。

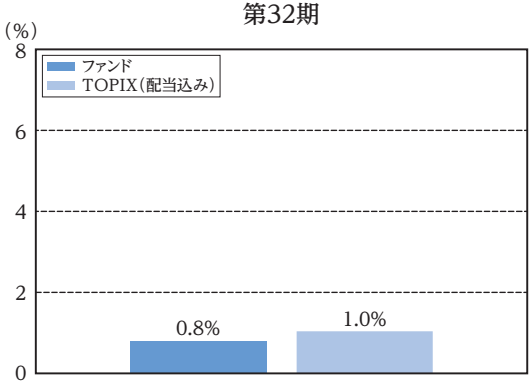
ショート・サイドでは、株価が割高な水準にあると判断した小売・サービス株や、市場予想に対して業績が下振れると見込んだテクノロジー株を新規で組入れました。他方、日経平均構成銘柄に採用される可能性が高まり株価が上昇したテクノロジー株や、利益を確定するために情報・通信株及び小売・サービス株等を買い戻しました。

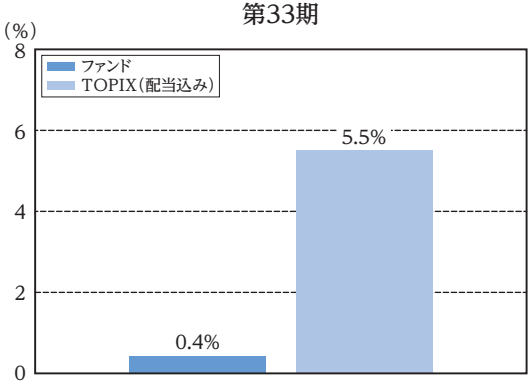
［用語解説（五十音順）］

・ ショート・サイド： 売り持ちポジション
・ ネット・エクスポージャー： ロング・サイドの組入比率－ショート・サイドの同比率
・ ネット・ロング： ロング・サイドの組入比率がショート・サイドの同比率を上回っていること
・ ロング・サイド： 買い持ちポジション

## ■ ベンチマークとの差異について

当ファンドはベンチマークを設けておりません。下記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。




## ■ 分配金

基準価額の水準等を勘案し、当作成期は収益分配を見送らせていただきました。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(単位:円・%、1万口当たり・税引前)

| 項目 | | 第32期<br>2021年5月26日～2021年8月25日 | 第33期<br>2021年8月26日～2021年11月25日 |
|---|---|---|---|
| 当期分配金 | | 0 | 0 |
| (対基準価額比率) | | − | − |
| | 当期の収益 | − | − |
| | 当期の収益以外 | − | − |
| 翌期繰越分配対象額 | | 206 | 216 |

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

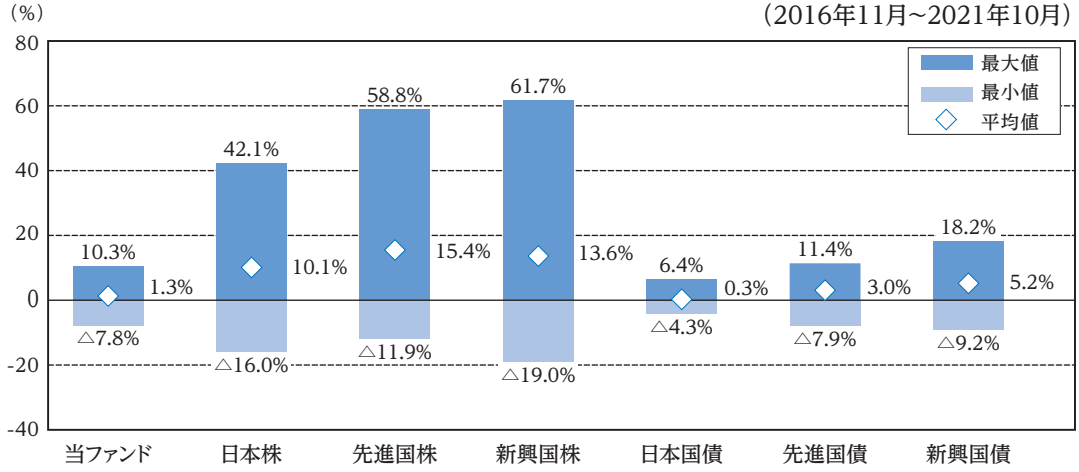
## お知らせ

該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

| | | |
|---|---|---|
| 商品分類 | 追加型投信／国内／株式／特殊型（ロング・ショート型） | |
| 信託期間 | 2013年7月31日から2021年11月26日まで | |
| 運用方針 | 株式ロング・ショート戦略により、絶対リターンの獲得を目指して積極的な運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | ベビーファンド | 「Bayview 日本株ロングショート マザーファンド」（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券を主要投資対象とします。なお、わが国の金融商品取引所上場株式ならびに短期金融商品に直接投資することがあります。 |
| | マザーファンド | わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | ① マザーファンド受益証券への投資を通じて、現物株式へ投資すると同時に、信用取引により株式を売り付けることで市場変動リスクを軽減しつつ、個別株式の選択効果を最大限に引き出し、厳格なリスク管理の下で、中・長期的に安定した絶対リターンの獲得を目指した運用を行います。<br>② 投資する株式、信用売りをする株式いずれにおいても、ファンダメンタルズ分析に基づいてボトムアップ・アプローチにより個別銘柄を厳選し、投資収益の獲得を目指します。<br>③ 同一産業セクター内で相対的に割安な個別銘柄に投資すると同時に相対的に割高な個別銘柄を信用売りをするペア・トレード戦略による運用を行います。<br>④ ポートフォリオの株式組入比率を機動的に調整して運用を行います。また、運用の効率化を図るために株式指数先物等を利用する場合があります。<br>⑤ リスク管理の観点から、特定の少数銘柄、少数セクターへの極端な集中投資を避けて、分散投資を行うことを基本とします。<br>⑥ マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。 | |
| 投資制限 | ベビーファンド | ① 株式への実質投資割合には制限を設けません。<br>② 同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において、信託財産の純資産総額の10%以下とします。<br>③ 外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。 |
| | マザーファンド | ① 株式への投資割合には、制限を設けません。<br>② 同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において、信託財産の純資産総額の10%以下とします。<br>③ 信用取引による株式の売付け額は、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。<br>④ 外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額20%以下とします。<br>⑤ 有価証券の買付け額および有価証券先物取引等による買建ての想定元本の額の合計金額（ロング・ポジションの総額）は、信託財産の純資産総額の範囲内とします。<br>⑥ 有価証券の売付け額および有価証券先物取引等による売建ての想定元本の額の合計金額（ショート・ポジションの総額）は、信託財産の純資産総額の範囲内とします。 |
| 分配方針 | 毎年4回（2月、5月、8月および11月の25日。休業日の場合は翌営業日。）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。<br>① 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子、配当収入および売買益（評価益を含みます。）の全額とします。<br>② 収益分配金額は、委託者が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないこともあります。<br>③ 収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき運用を行います。 | |

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較




○全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
○上記は、過去5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
○決算日に対応した数値とは異なります。

○各資産クラスの指数
日 本 株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み）
新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み）
日本国債：FTSE日本国債インデックス
先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本）
新興国債：JPモルガンEMBIグローバル・ダイバーシファイド

海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。
上記各指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はその指数を算出、公表しているそれぞれの主体に帰属します（TOPIX:株式会社東京証券取引所、MSCIコクサイ・インデックス及びMSCIエマージング・マーケット・インデックス:MSCI Inc.、FTSE日本国債インデックス及びFTSE世界国債インデックス:FTSE Fixed Income LLC、JPモルガンEMBIグローバル・ダイバーシファイド:J.P. Morgan Securities LLC）。また、それぞれの主体は当ファンドの運用に関して一切の責任を負うものではありません。

## 当ファンドのデータ

### ■ 組入資産の内容

2021年11月25日現在、有価証券の組入はございません。

**純資産等**

| 項　　目 | 第17作成期末<br>2021年11月25日 |
|---|---|
| 純　資　産　総　額 | 348,058,981円 |
| 受　益　権　総　口　数 | 359,229,503口 |
| 1万口当たり基準価額 | 9,689円 |

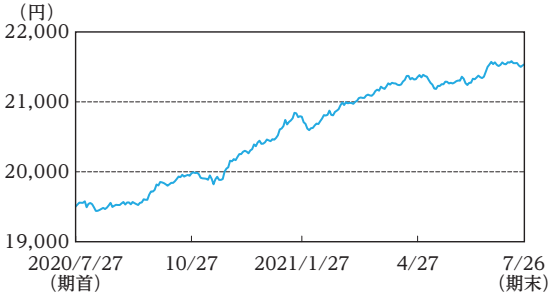
（注）当作成期間中における追加設定元本額は104,136円、同解約元本額は9,664,030円です。

## ■ 組入上位ファンド(銘柄)の内容

(2021年7月26日現在)

●Bayview 日本株ロングショート マザーファンド (計算期間:2020年7月28日~2021年7月26日)

### 基準価額の推移




### 1万口当たりの費用明細

| 項目 | 当期 金額 | 当期 比率 |
|---|---|---|
| (a) 売買委託手数料 | 14円 | 0.068 % |
| (株式) | ( 13 ) | ( 0.063 ) |
| (先物・オプション) | ( 1 ) | ( 0.005 ) |
| (b) その他費用 | 137 | 0.666 |
| (信用取引) | ( 122 ) | ( 0.597 ) |
| (その他) | ( 14 ) | ( 0.070 ) |
| 合計 | 151 | 0.734 |

当期中の平均基準価額は20,538円です。

### 組入上位10銘柄

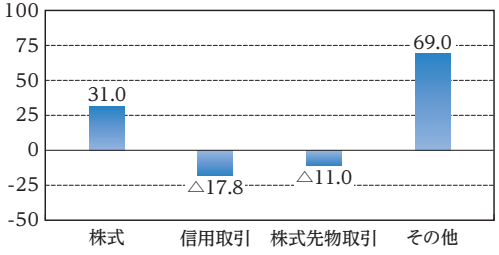
**ロング・サイド** (組入銘柄数:72銘柄)

| | コード | 銘柄名 | 業種 | 比率 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 8035 | 東京エレクトロン | 電気機器 | 1.04% |
| 2 | 7203 | トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 1.01% |
| 3 | 6758 | ソニーグループ | 電気機器 | 0.88% |
| 4 | 6817 | スミダコーポレーション | 電気機器 | 0.84% |
| 5 | 6264 | マルマエ | 機械 | 0.82% |
| 6 | 8750 | 第一生命ホールディングス | 保険業 | 0.79% |
| 7 | 7726 | 黒田精工 | 機械 | 0.78% |
| 8 | 8031 | 三井物産 | 卸売業 | 0.77% |
| 9 | 6752 | パナソニック | 電気機器 | 0.75% |
| 10 | 9107 | 川崎汽船 | 海運業 | 0.72% |

**ショート・サイド** (組入銘柄数:60銘柄)

| | 業種 | 比率 |
|---|---|---|
| 1 | 情報・通信業 | 0.90% |
| 2 | 電気機器 | 0.64% |
| 3 | 情報・通信業 | 0.61% |
| 4 | 卸売業 | 0.54% |
| 5 | 建設業 | 0.53% |
| 6 | 輸送用機器 | 0.51% |
| 7 | その他製品 | 0.50% |
| 8 | 医薬品 | 0.49% |
| 9 | 繊維製品 | 0.45% |
| 10 | 建設業 | 0.45% |

### 資産別配分




### 国別配分

### 通貨別配分

(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2021年7月26日現在のものです。
(注2) 1万口当たりの費用明細は当該マザーファンドの直近の決算期のものです。費用項目の概要については、2ページの注記をご参照ください。
(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注4) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。
(注5) 組入上位10銘柄のショート・サイドにおいて、円滑な企業調査を良好に維持するため、銘柄名は開示しておりません。
※詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されております。

BAYVIEW
ASSET MANAGEMENT